

ザッツライトとは……それが権利だ!そのとおり!!という意味です。



家族みんなで楽しかったよ!



ここにこ
笑顔が
いっぱい!



成仁幼稚園

家族だんらんの日

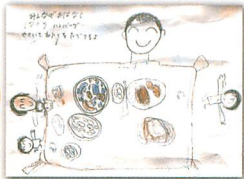
毎月11日

家族
だんらんの日に
こんなことを
してみました!

子ども達の
楽しそうな笑顔が
いっぱいです!

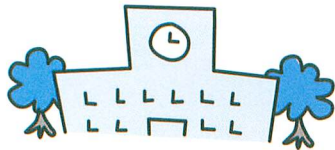


親子で一緒にする
体験は子ども達の
心の中の宝物に!



毎月11日は、家族だんらんの日です!!

「家族だんらんの日」は、家族の絆・人と人の絆・地域の絆を確認しあい、次代の福知山を担う子どもたちの健全育成を推進する取組です。
 普段は忙しくて、つい忘れがちなこと…家族全員に「おはよう」「おやすみ」ときちんといさつする…家族一人一人が大切な存在であり、人と人がつながりあっていることを確かめ合える、そんな「家族だんらんの日」にしてください。



いじめのない安心して

「いじめ」とは・・・

「一定の人間関係のある者から、心理的・物理的な攻撃を受けたことにより、精神的苦痛を感じているもの」

【いじめの定義】※文部科学省(平成18年から)

いじめに対する本市の基本的認識は・・・

- 1 決して許されない人権侵害である。
- 2 どの学校、どの学級でも起こる問題である。
- 3 子どもを守り抜く姿勢に立った組織的対応が必要である。

福知山市の小・中学校では？

●実態把握

福知山市教育委員会では、これまでに2回のいじめに関するアンケートを実施し、いじめの早期発見、早期対応につなげるよう児童生徒の実態の把握に努めてきました。

いずれも、子どもの立場に立って「子どもがいじめと感じたこと」のすべてを把握するため、日常ありがちな「冷やかしゃからかい」等もすべて「いじめの芽」ととらえ、「いじめの小さな芽」から摘んでいくことを「大津のいじめ問題」の教訓ととらえています。

文部科学省 第1回児童生徒アンケート (H24.8/31～9/5実施)

第2回児童生徒アンケート (H25.1/8～1/11実施)

対象者 市立小学校(26校) 4,558人 中学校(9校) 2,285人 計(35校) 6,843人

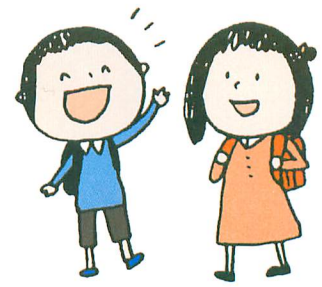
以下の調査結果は、小学1年生から中学3年生まで自分がいじめと感じたものは、すべて程度の差に関係なくカウントしています。

()内は、第1回調査の項目と数値

項目	小学校	中学校	計
●いじめと感じた件数	1,341件 (2,081件)	604件 (904件)	1,945件 (2,985件)
●いじめと感じた人数	786人 (1,335人)	337人 (614人)	1,123人 (1,949人)
●いじめが解消しているものの件数	1,045件 (1,545件)	434件 (627件)	1,479件 (2,172件)
●身体又は生命に危険が直接及ぶ可能性が特に高い、いじめが主たる原因で不登校になっている、警察との速やかな連携が必要、と学校が判断した件数 (生命又は身体の安全がおびやかされるような重大な事態に至るおそれがあると考える件数)	1件 (10件)	1件 (5件)	2件 (15件)

この2回目の調査では、全体の80%以上の学校で1回目の調査より、いじめの件数が減少しました。第1回の調査以降、教職員のいじめに対する意識が一層高まり、学校全体での継続した指導や、地域や保護者への学校だより等での啓発・情報共有によって、児童生徒や保護者の「いじめはいけない」という認識や二者面談等、教職員の丁寧な関わりと子どもと向き合うなかで、「いじめのない学校をつくろう」という意識も向上してきた結果と捉えています。一方で件数が増えた学校もありました。これは、全体的に「いじめ」問題に関する様々な取組の中で、「いじめ」に対する感性が高まり、低学年に見られる悪口やコミュニケーションの未熟さによるトラブル等についても「いじめ」と捉える児童が増えたためと思われます。

学べる学校をめざして



学校では・・・

各学校では、危機意識を持って丁寧に組織的に対応し、いじめの解消へ向けて努力を続けています。特に教職員一人一人が「いじめは決して許されない人権侵害である。」「児童生徒一人一人の人権を大切にする。」という意識をもって、指導にあたることを大切にしています。

●主な取組

- ◎始業式や終業式をはじめ、全校児童生徒が集まる場面で、校長や生徒指導・人権担当教員からいじめについての講話やアピールを行い、いじめ防止を訴えています。
- ◎すべての教職員は、「いじめは決して許されない人権侵害である。」という思いを具体的に児童生徒に指導しています。
- ◎随時、学校独自のアンケートを実施し、児童生徒の友人関係を把握し、また学校全体で子どもたちの状況を共有し、早期対応に努めています。
- ◎特設の人権学習を実施し、いじめの構造やいじめられている人、その家族の悲しみを考えるとともに、命の大切さについて考えています。
- ◎二者面談や教育相談を実施し、すべての児童生徒から聞き取りを行って、本人の思いを理解することに努めています。
- ◎各校の実態に合わせたいじめ防止に関わる様々な取組を工夫して継続的に行っています。
- ◎いじめは重大な人権侵害であるということを保護者や地域に対して、様々な方法で啓発しています。

●教育委員会の主な取組

【いじめ根絶対策事業】

- ◆いじめ防止のワークショップ研修を実施
- ◆仮称「いじめ根絶月間」を設定
- ◆いじめに関する研修会を実施
- ◎平成24年度から3カ年計画で「ふくちやまCAP」による、いじめ防止を体験的に学び、考える「いじめ根絶対策事業」を実施しています。この事業を通して、教職員や保護者には子どもの思いを受け止め、いじめを許さない風土づくりに向けて、児童生徒にはコミュニケーションスキルの向上の観点から、いじめのない集団づくりのサポートに取り組んでいます。
- ◎定期的に児童生徒の実態把握を行い、学校の組織的な対応へのサポートをしていきます。

*いじめ電話相談を開設しています。TEL.24-0031

(教育委員会学校教育課で指導主事が対応しています。)

【開設時間 AM8:30～PM5:00 ただし、土・日・祝日を除く】

児童生徒は学校だけでなく、家庭や地域で多くの人と関わりを持ちながら生活しています。学校教育のみならず、保護者や地域の方々、そして多くのみなさんのご理解・ご協力をいただきながら、福知山市民総ぐるみで未来を担う子どもを見守り、いじめ問題の解消にあたりたいと考えています。





共に幸せを生きる



多文化共生社会を目指して

地域の国際化

平成23年の特別永住者を含む在日外国人の人口は、全国で約207万人にのぼり、平成24年に日本を訪れた外国人旅行者の数は約836万人にもなります。福知山市にも、現在約900人の外国籍の人が住んでおられ、出身国も中国、韓国、フィリピンといったアジアだけでなく、ブラジル、アメリカなどさまざまです。国際化は今後ますます進んでいくことが予想され、外国から来られた方にとっても住みよい街づくりを目指していく必要があります。

同じ地域に住む仲間となるためには、お互いの文化や生活習慣等の違いを認め合い、コミュニケーションが必要不可欠です。みなさんは同じ地域に住む外国籍の人とコミュニケーションを取ることに不安はないですか。みなさんが不安を感じるように、外国籍の人もまた不安を感じたり困難な出来事に遭うことがあります。

例えば平成23年に起こった東日本大震災では、多くの外国籍の人が次のような困難に直面したことが報告されています。

- ◎電車で帰ろうとした人の中には、止まった交通機関の状況を説明する駅のアナウンスが理解できなかったため、混乱した人が多くいた。
- ◎母語による解説が無く、怖いニュース映像を見たため、とても不安になった。
- ◎買い占めによる食料・水不足が理解できず、対応が遅れた。
- ◎計画停電のお知らせが読めず、エレベーターに閉じ込められた。 等



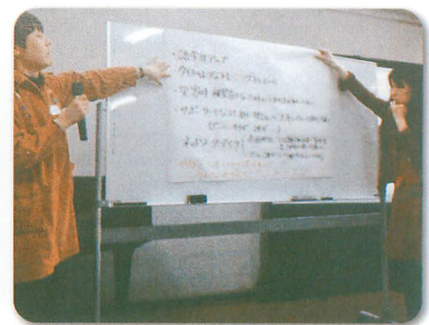
東京都「災害時における外国人への状況報告—東日本大震災の経験を踏まえて—」引用

福知山市の取組

福知山市と京都府国際センターでは、府北部での災害時外国人支援体制の構築を目指す取組を行っています。1月には市民会館で、災害時の外国人支援を行う上で必要な外国語への通訳・翻訳等の基本的な知識や技術を、地域のボランティアに学んでいただく「災害時外国人サポーター研修」を開催し、26名の方が参加されました。

また「福知山市外国語生活ガイドブック」では、本市で生活するうえでの基本的な情報を英語・中国語・韓国朝鮮語・スペイン語・ポルトガル語・タガログ語で表記しています。ガイドブックは福知山市役所まちづくり推進課と各支所で配布しています。なお、同内容を市のホームページにも掲載していますので、ぜひご利用ください。

【福知山市役所ホームページ→ホームページ左上にある各言語を選択→各言語でのガイドブックが表示されます。】



東日本大震災に伴う人権問題

～私たちにできること、共に未来をつくること～

平成23年3月11日の東日本大震災の発生から、2年4ヶ月が過ぎました。東北地方太平洋沖地震とそれに伴って発生した津波の被害は甚大で、未だ被災地では懸命な復興作業が続いています。

福知山市からも、震災発生直後には、緊急消防援助隊や応急給水活動隊、福知山市民病院の医師や看護師で編成するDMAT隊を派遣した他、平成25年度からは2名の職員を石巻市に派遣し、震災復興業務に従事させています。(右写真)

またこうした行政活動以外にも、有志の方によるボランティア活動や義援金の寄付、さまざまなチャリティ活動など、復興応援の活動が続けられ、多くの方が被災地の一刻も早い復興を願っています。



職員派遣に係る辞令交付の様子

このように多くの方が被災地へ思いを向け、共に未来を築こうとしている一方で、被災地に対する風評被害が起こったり、避難者に対して心ない言動が向けられることがあります。

平成24年に内閣府が実施した「人権擁護に関する世論調査」によりますと、「東日本大震災やそれに伴う福島第一原子力発電所の事故により、現在、被災者にどのような人権問題が起きていると思いますか」という質問に対して、「避難生活の長期化によるストレスに伴ういさかいや虐待」を64.9%の人が挙げたのに続き、「差別的な言動をされること」が22.2%、「職場、学校等でいやがらせやいじめを受けること」が19.6%、「学校、幼稚園等への入学や入園を拒否されること」が18.3%となっています。

実際、新聞報道等によりますと、原発事故のあった福島県からの避難者がホテルで宿泊を拒否されたり、ガソリンの給油を拒否されるといった事案のほか、小学生が避難先の小学校でいじめられるなどの事案があったとされています。

根拠のない思い込みや偏見に踊らされ、差別したり、嫌がらせをすることは決して許されることではありません。住み慣れた土地をはなれて暮らすことは、どのような場合であっても非常に大変なことです。ましてや被災地からの避難のように、否応なしの場合であればなおさらでしょう。震災にあい、相当の覚悟を決め避難した先で、もし心無い言葉を投げかけられたら、どんな気持ちになるでしょうか。

相手の気持ちを思いやること、やさしさを忘れないこと、そして誰もが共に未来を作る仲間であることを心に置き、この困難をみんなで乗り越えて行きましょう。

東日本大震災に伴い、どのような人権問題が起きていると思いますか？



人権啓発ビデオ

ほんとの空

「この空は、『ほんとの空』に
続いている。いつか一緒に、
見に行こう」



こちらのビデオは生涯学習課 (TEL24-7065・FAX24-4880) で
貸出をしています。

向井 輝は空が大好きで、いつもカメラを抱え、空や雲の写真ばかりをとっている。しかし、同級生たちはそんな輝を馬鹿にし、ともだちもいない。

ある日、輝は自宅マンションの屋上で、同じ年頃の少年・龍太が空にカメラを向けているのを見かける。お互い空が好きという二人はすぐに意気投合し、輝は龍太を自宅に招く。

「ほんとの空」というタイトルの写真を説明する輝に、龍太は「僕は、その写真のテーマとなった高村光太郎の詩の舞台…福島の出身だ」と告げる。龍太の家族は、原発事故で福島から避難してきたのだった…。

美鈴小学校の人権教育

…学校教育目標…

自ら考え、自分と友達を大切にする、心身ともにたくましい児童の育成

- みずから (自ら) 考え、よく学ぶ子
 - すすんで (進んで) よいことをし、思いやりのある子
 - ずっと元気で、心と体をきたえる子
- いきいき (知)
にこにこ (徳)
ぐんぐん (体)

人権教育の目標

- (1)教育活動全体を通じて、すべての児童に基本的人権や同和問題をはじめとするさまざまな人権問題について正しい理解や認識の基盤を培い、解決のための実践的態度の育成を図る。
- (2)すべての児童に教育の機会均等を図り、基礎学力の充実、進路保障に努める。
- (3)お互いの個性や価値の違いを認め、自己や他者を尊重する態度や実践力を培う。

学力の充実 児童一人一人に基礎学力の定着を!

- ①全校一斉学習「美鈴タイム」で漢字力・言語力・計算力の育成
- ②朝読書・昼読書の充実
- ③「パワーアップタイム」低高学年別の補習
- ④毎学期末に行う計算力・漢字力テスト
- ⑤漢字検定に挑戦



自分の考えを出し合う!

ボランティアの方による読み聞かせ

具体的な取組の紹介

人権旬間の取組

前期、後期に人権旬間を設け、自尊感情を育む、他者理解を図る、人権意識を高める取組を行っています。



人権学習

ありがとう集会
いいところがいっぱい!

優しい心を
とどけよう!

人権講演会!



ふれあい活動の充実

大江作業所、五十鈴荘 (障害者、老人福祉施設) との交流、げん鬼保育園との交流を通して思いやりの心を育てる。



作業所で体験!

お手玉ろくに
考えしてもらったよ!

保育園の友だちを
ご招待!



中六人部小学校の人権教育

学校教育目標

「自分のために、人のために、そして社会のために」を意識した自らの夢を実現するための質の高い学力・豊かな心・健康な身体をそなえた児童の育成
めざす児童像 自ら学び、考え、判断し、行動する子

人権教育基本方針

教育活動全体に人権教育を適切に位置付け、児童の実態を的確に把握して、教育の機会均等を図り、学力の充実・向上や進路保障に努めるなど、一人一人を大切にされた教育の推進を図る。また、基本的人権や同和問題などさまざまな人権問題についての正しい理解や認識の基礎と、互いの個性や価値観の違いを認め、自己を尊重し他者を尊重する態度や実践力を培う。

教職員の人権教育研修を日常的・系統的に行い、人権教育推進のための認識の深化と指導力の向上を図る。

具体的な取組の紹介

学力の充実

- ・基礎的な漢字力・計算力の定着を図る「まなびタイム」
- ・個別指導で学習課題の克服と定着を図る「学力クリニック」
- ・六人部ブロックの取組と関連し、言語事項の基礎・応用の力の定着を図る「つながりロックタイム」
- ・読書の「質・量」の向上を目指す「読書タイム」

人権学習の充実



人権旬間の取組

友だちのいいところやうれしかったことをメッセージに書いて贈るハッピーポストは、どの児童も楽しみながら取り組んでいます。学習したことを活かして、各学級で「人権学級目標」や「ぼく・私の人権宣言」を立て、取り組んでいます。わくわくロングタイムでは、全校遊びを行い、児童同士の交流を深めています。

一輪車が上手だね!



いつも優しくしてくれてありがとう。

ふれあい活動

地域の方々とのふれあいを計画的に行い、心を豊かにそだてています。

ふれあい教室

ふれあいタイム



ふれあい給食



お話会さんの読み聞かせ



毎月テーマに沿ってたくさんの本との出会いがあります。



地域の方々と一緒に皮剥きをした檜は、6年生が地域の名所の看板を取り付けて、中六バス停のベンチになりました。

梅干し半十郎

江戸時代末期、当時の福知山城主朽木12代目藩主・

綱張の頃、全国的な凶作、飢きんとなり、福知山藩も莫大な借財を抱えていました。財政再建を命じられた家老・市川儀右衛門は、庶民に厳しい12か条の俵約令を出しました。俵約令は大変厳しいものだったので、人々から不平不満の声が上がっていました。

同じ頃、押込強盗事件が起こりました。下手人は福知山の松本屋銀兵衛という親分の元で用心棒として暮らしていた作州（岡山県）津山の浪人松岡半十郎と西郷新太郎。彼らは福知山を離れる際、町人に無理難題を押し付ける市川にひとあわふかせてやろうと、当時産物穀物類の一切を統制売買し巨利を得ていた藩制定の間屋、福知山藩産物会所に押し入り、宿直の男二人を殺害して金を奪い、そのお金を生活に困っている人に施して逃げました。

しかしあえなく捕らえられ厳しい取り調べを受け、西郷新太郎は獄死、半十郎は町中引き廻しの上、和久市三昧の仕置場で打ち首になりました。処刑の際、半十郎は辞世の歌として「三味線の糸より細きわが命 引き廻されて罰（バチ…撥）は目の前」と詠み、隠し持っていた一寸八分の金の観音像を飲み込んで、「私の墓へ好物の梅干しを持って参れば、観音様のご利益で必ず首から上の病気は治る」と言い残しました。

その後、義賊・半十郎の伝説は時世にのって広まり、大勢がお参りし、お供えの梅干しが絶えません。今も「妙徳伴大明神梅干し半十郎観音」として崇敬されています。

この事件がきっかけとなり、百姓一揆「市川騒動」が起こりました。

百姓一揆の犠牲者が神仏としてあがめられている例は各地にあります。このような押込強盗の下手人が義賊となり、ついに観音として信仰を集めている例はあまりないでしょう。このことは、当時産物会所なり藩営専売制が、いかに領民の恨みを買っていたかを示すものではないでしょうか。



身元調査 しない・させない・見逃さない

福知山市では、公民館、PTA、婦人会、子ども会指導者連絡協議会等の代表で組織する社会人権教育推進委員会が中心となって、「身元調査お断り運動」の実践に取り組んでいます。

*「身元調査お断りステッカー」は、福知山市教育委員会事務局生涯学習課（TEL.24-7065）で1枚20円で販売しています。

